

「能登の時代が来るよ」

東京のギャラリーが能登一色に染まる。

柳田出身の写真家梅佳代さん(26歳)

柳田在住の写真家中乃波木さん(28歳)

能登町ゆかりの若手写真家二人が

東京で「能登」について語り合った。



東京に能登の夜を

「能登ナイト」と名付けられた二人のトークショーは、中さんの写真集「Noto」出版に合わせて開催された写真展のイベントとして12月22日に企画された。中さんの写真が飾られた東京都千代田区のFOUギャラリーには、二人のファンや能登町出身者など約50人が集まり二人の「能登トーク」を楽しんだ。中学1年の途中に旧柳田村に引っ越してきた中さん。都会から能登に来た印象について「映画の風景の中に飛び込んだようであれしかった」と振り返る。「今回の写真集は全部能登で撮った写真。能登に来て感じた映画のような風景を写真で表現したかった」と話す。

共に過ごした中学時代

中さんと梅さんは学年が一つ違い。同じ柳田中学校に通っていて、トークショーも中学校時代の話に花が咲いた。中さんは梅さんのことを「中学時代から面白い子がいるなと思っていて。佳代ちゃんは人に向かっていくところがすごい」という。



風景写真がメインの中さんと人物のスナップ写真がメインの梅さんはその作風はまったくの正反対。お互いに作品に対する思いや疑問をぶつける。

梅さんは「人が面白いから人を撮っているし、写真を撮ると人が好きになる」と自分の撮影スタイルを話す。「都会に出てきて、今でもいろいろなこと感動する」という梅さんの作品には、都会で暮らす人が忘れてしまった「感動」があるから共感を呼ぶことが出来るのだ。

能登の時代が来る

次のプロジェクトを質問された二人。中さんは「これから能登を舞台に撮り続けていきたい。この先どんな能登の写真に

なるのか自分でも楽しみだし、能登の人とも旅行者の人とも違う視線での能登を出せたらいい」と話し、梅さんは「能登のじいちゃん(梅さんの祖父)の写真集を作りたい」と話す。「これから能登の時代が来るよね」。

二人の新しいスタート

二人の能登に対する考えは違っても、故郷・能登に対する想いは同じように強い。

「能登の人も来てくれたので東京で能登ワールドを作れました。今は早く能登に帰りたい。トークショー直後、中さんの気持ちは「能登」にあった。

「能登の人も来てくれたので東京で能登ワールドを作りました。今は早く能登に帰りたい。トークショー直後、中さんの気持ちは「能登」にあった。

中乃波木(なか・のはぎ)

昭和54年、東京都生まれ。中学の2年半を旧柳田村で過ごす。東京造形大写真学科卒。広告写真制作会社を経て独立。昨年12月に初の写真集「Noto」を出版。現在能登町を拠点とし活動中。



梅佳代(うめ・かよ)

昭和56年、能登町(十郎原)生まれ。日本写真映像専門学校卒。昨年、若手写真家の登竜門である木村伊兵衛写真賞を写真集「うめめ」で受賞した。昨年7月に「男子」出版。東京都在住。



故郷の若い写真家を応援したい

今回のトークショーに、関東在住の旧柳田村出身者で作る「ふる里柳田会」のメンバー9人が二人の応援に駆け付けてくれた。



ふる里柳田会会長

橋本 博さん(北河内出身・72歳)
「柳田の話が出てきて懐かしく思いました。二人のように若い人が頑張ってくれて、能登町が栄えてくれればいいと思います。これからも頑張ってください」

ふる里柳田会事務局長

内平由美子さん(石井出身・60歳)
「梅佳代さんは実物がすごくかわいかったです。梅さんも中さんも東京でイベントがあるときや地元柳田で個展を開くときは『ふる里柳田会』が応援します」



8. 給与水準（ラスパイレス指数※）

区分	18年度	19年度
能登町	88.8	89.0
県内町	87.4	87.4
全国町村	93.5	93.9

※国を100としたもの

9. 部門別職員数の状況（4月1日現在）

区分		職員数		前年比
		18年度	19年度	
一般行政	議会	5	4	△1
	総務	93	84	△9
	税務	19	19	0
	労働	2	2	0
	農林水産	25	26	1
	商工	14	12	△2
	土木	21	17	△4
	民生	99	98	△1
	衛生	29	36	7
	小計	307	298	△9
特別行政	教育	47	44	△3
公営企業等会計	病院	172	163	△9
	水道	16	15	△1
	下水道	10	9	△1
	その他	18	18	0
	小計	216	205	△11
合計		570	547	△23

10. 定員適正化計画

①適正な定員管理

徹底したスクラップ・アンド・ビルドにより、総数の増加を極力抑制するなかで、政策の変化や業務量の変化に応じた職員の適正配置に努めています。

「定員適正化計画」による計画では、10年間で140人を削減する目標を掲げています。

②採用・退職の状況

区分	17年度(人)	18年度(人)	19年度(人)
前年度退職者等	16	12	27
新規採用等	4	5	11
年度当初職員数	577	570	547
前年比	△29	△7	△23

6. 職員手当の状況

6-①期末・勤勉手当（19年度）

区分	能登町	国
支給率		
期末手当	2.40月分	3.00月分
勤勉手当	1.20月分	1.50月分
計	3.60月分	4.50月分
加算措置	職制上の段階、職務の級などによる	

6-②退職手当

区分	自己都合	勤奨定年
支給率		
勤続20年	23.50月分	30.55月分
勤続25年	33.50月分	41.34月分
勤続35年	47.50月分	59.28月分
最高限度	59.28月分	59.28月分
平均支給額	19,692千円	
加算措置	定年前早期退職の場合2～20%加算	

6-③扶養・住居・通勤手当 国の基準と同じ

6-④時間外勤務手当（普通会計）

18年度	支給総額	11,004千円
	職員1人当たり支給年額	32千円

6-⑤特殊勤務手当（18年度）

区分	全職種
職員全体に占める手当支給職員の割合	24.9%
支給対象職員1人当たり平均支給年額	56,644円
手当の種類（手当数）	7種類

7. 特別職の報酬等の状況（19年度）

区分	月額	期末手当
給料	町長	6月期 0.80月
	副町長	12月期 0.85月 計 1.65月 (50%減額)
報酬	議長	6月期 1.28月
	副議長	12月期 1.36月
	議員	計 2.64月 (20%減額)

(注) 特別職の報酬などの金額は、学識経験者などで構成される特別報酬等審議会の答申に基づき、条例で定められています。

町 職員の給与は、人事院勧告に基づいて行われる国家公務員の給与に準じて条例案が作られ、町議会の議決を経て支給されています。行政の透明性を確保し、町民の皆さんに一層のご理解をいただくため、職員に支給している給与等のあらましをお知らせします。

平成19年度は、高齢職員（行政職55歳以上等）の昇給停止および給与の減額（△2%～△6%）を行いました。また賞与についても昨年度に引き続き減額（一般職△20%・特別職△50%）をしています。

町職員の
給与等の
あらましの

1. 人件費の状況（普通会計決算）

区分	住民基本台帳人口 (18年度末)	歳出額A (千円)	実質収支 (千円)	人件費B (千円)	人件費率 B/A	17年度の 人件費率
18年度	22,660人	15,297,443	272,332	2,570,719	16.8%	15.2%

2. 職員給与費の状況（普通会計決算）

区分	職員数 A	給与費（職員手当には退職手当を含まない）				一人当たり給与費 B/A
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
18年度	349人	1,282,663千円	104,927千円	420,418千円	1,808,008千円	5,181千円

3. 職員の初任給の状況（19年4月1日現在）

区分		初任給月額		
		能登町	石川県	国
一般行政職	大学卒	170,200円	170,200円	170,200円
	高校卒	138,400円	138,400円	138,400円
技能労務職	高校卒	135,600円	—	—

4. 職員の平均給料月額および平均給与月額の状況（19年4月1日現在）

区分	能登町			国		
	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
一般行政職	45.0歳	321,981円	335,116円	40.7歳	325,724円	383,541円
技能労務職	51.1歳	254,105円	263,940円	48.8歳	287,094円	320,514円

5. 一般行政職の級別職員数の状況（19年4月1日現在）

区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級
職名	主事技師	主事技師	主幹係長主査	課長補佐主幹	課長課参事	課長
職員数	29人	42人	87人	65人	17人	20人
構成比	11.2%	16.2%	33.4%	25.0%	6.5%	7.7%

(注) 能登町職員の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数

申告受付スケジュール

受付時間：午前9時～午後4時（一部午前9時30分から）

月	日	曜	内	容
2	18	月	【小木地区】 小木支所	高倉地区 高倉出張所 9:30～16:00
	19	火		神野地区 神野公民館 9:30～16:00
	20	水		瑞穂地区 瑞穂公民館 9:30～16:00
	21	木		鵜川地区 鵜川支所 9:30～16:00
	22	金		白丸地区 白丸公民館 9:30～16:00
	23	土		受け付けしません
	24	日		受け付けしません
	25	月		税務署相談 能都庁舎4階ホール 9:30～12:00、13:00～16:00 ※地震被害による所得税の雑損控除を受けようとする人は、必要書類を持ってお越しください。
	26	火		
	27	水		不動寺地区 不動寺公民館 9:30～16:00
3	28	木	【全地区】 能都庁舎2階 ロビー	
	29	金		
	1	土		受け付けしません
	2	日		受け付けしません
	3	月		
	4	火		
	5	水		
	6	木		
	7	金		
	8	土		休日申告受付 能都庁舎のみ
9	日	休日申告受付 能都庁舎のみ		
10	月			
11	火			
12	水			
13	木			
14	金			
15	土	受け付けしません		
16	日	休日申告受付 能都庁舎のみ		
17	月			

※申告期間中は大変混雑し、長時間お待たせすることがありますので時間に余裕を持ってお越しください。

所得や税額の計算の仕方、申告書の書き方などで分からないことがありましたらお気軽に最寄りの税務署、税務相談室、役場税務課までお問い合わせください。

■輪島税務署 ☎ 0768-22-2241 ■税務相談室 ☎ 076-263-8080 ■役場税務課 ☎ 62-8505

平成20年度の町民税・県民税および平成19年分の所得税の申告受付は2月18日(月)から3月17日(月)までです。申告に必要な書類をそろえ、期限内に申告できるように準備しましょう。

▶町民税の申告について

平成20年1月1日現在、能登町に住居登録している人で、20歳以上の人に申告書が配布されます。申告は国民健康保険税と介護保険料の申告も兼ねています。申告をしなかった場合、軽減措置が受けられないなどの不利益が生じる場合がありますので昨年収入がなかった人も必ず申告しましょう。

▶申告に必要なもの

- 申告会場へ行く前に、忘れ物がないかチェックしましょう！
- 印かん（認め印）
 - 配布された町民税申告書（税務署から送付された人はその申告書も）
 - 平成19年中の収入の分かる書類（給与・報酬・賃金・年金のある人は源泉徴収票。なくした人は再発行してもらいましょう）
 - 生命保険料・地震保険料控除などを受ける人は控除証明書
 - 国民年金保険料を申告する人は納付額の証明書または領収書
 - 障害者控除を受ける人は障害者手帳・療養手帳など確認できるもの
 - 医療費控除を受ける人は医療費の領収書、補てんされる金額の明細書
 - 住宅借入金等特別控除を受ける人はその必要書類
 - 所得税の還付を受ける人は本人名義の金融機関名、口座番号がわかるもの
 - 地震被害による雑損控除を受ける人は、災害関連支出の領収書、保険金などで補てんされた金額のわかるもの

▶輪島税務署からのお知らせ

所得税の確定申告はe-Taxでカンタン申告！

国税電子申告・納税システムe-Tax（イータックス）がさらに便利で使いやすくなりました。

e-Taxには次のような特徴があります。

- ① ホームページから簡単に申告できます
- ② 最高5,000円の税額控除があります

電子申告により所得税の確定申告を提出する際、3月17日までに本人の電子証明書を併せて送信した場合に、所得税額から最高5,000円が控除されます（平成19年分、平成20年分のいずれか1回）。

- ③ 添付書類（第三者作成書類）が提出不要です

平成19年分以後の所得税の電子申告においては、源泉徴収票や医療費の領収書などの添付を省略できるようになります。書類の内容確認のため、確定申告期限から3年間、提出または提示を求めることがあります。

- ④ 還付金の支払いが迅速に（通常6週間が3週間程度に）

税務署での相談・申告受付は2月18日(月)からです

- 所得税・贈与税 3月17日(月)まで
- 個人事業税・地方消費税 3月31日(月)まで

にせ税理士に注意してください。

※奥能登総合事務所税務課（能登空港ターミナルビル4階 ☎ 0768-26-2304）でも所得税の確定申告ができます。

T A X
申告はお早めに！
町民税の



新鮮力！
税務課の

税務課：大澤 融（平成19年度採用）



大きな桜の木が目印!

町内に15ある公民館のうち地区世帯数が最も多いのが宇出津公民館です。45の町内を対象に年間を通じて活発な活動を続けている宇出津公民館を紹介します。

一番身近なカルチャースクール

文化・スポーツ教室などのメニューをたくさん取りそろえ、その中から住民の皆さんが希望するものを選んで体験できる公民館。地域の皆さんを対象にした教室が開かれ、気軽に生涯学習に親しむことができます。また、年間を通じて開催している公民館行事は、主に地域から選出された選任協力員が企画運営し、子どもからお年寄りまでが参加できる活動が催されています。



スポーツ大会について話し合う選任協力員の皆さん。円滑な大会運営のために細かい打ち合わせが行われます。

「いろいろな人たちが公民館の扉をたたいてくれるよう情報収集のアンテナをはり、要求に応えたい」と話す館長の開敷洋司さん。今後は皆さんに来てもらうのを待つだけではなく、公民館の活動に関するPRも行っていきたいとのこと。参加してくれた人が満足そうな表情をして帰る姿を見るのが最も嬉しい瞬間だそうです。

宇出津公民館で楽しめる教室・サークル

教室サークル名	開催日	教室サークル名	開催日
茶道教室なごみ	第1・3土12:00	コーラス	随時
切り絵教室	第3金13:30	歩こう会	随時
園芸教室	第1土13:30	青少年ボランティア	随時
料理教室	第2土10:00	手芸	毎週水19:00
古典教室	第3水19:00	手話	毎週金19:00
着付け教室	第2・3金19:30	囲碁(大人・子ども)	随時
短歌会	第3金13:30	ごいた保存会	随時
俳句会	第1土13:30	山ゆり会	毎週水13:30
大正琴	第2・4木13:30	ジャザサイズ(大人)	毎週水10:00
詩吟	随時	ジャザサイズ(子ども)	毎週水15:30
民舞	毎週金13:30		



講師に指導を受けるのではなく、テキストなどを参考に仲間との会話を楽しみながら創作活動を行う手芸教室。

そのほかの公民館行事に関する内容は、毎月発行している館報でも紹介しています。「今まで公民館活動には興味がなかった」という皆さん、ぜひ一度公民館に行ってみましょう。一番身近な学習と交流の場として宇出津公民館をご利用ください。



施設への慰問活動なども積極的にやっている民舞教室の皆さん。踊りを通した健康づくりに励んでいます。



手話教室は子どもから大人まで一緒に活動しています。テーマに沿った内容を自分の感じたように手話で表現します。

平成20年

出初式表彰者

※敬称略

- 消防庁長官表彰**
 退職消防団員報償
 清座忠雄(元副団長) 川崎紘靖(元分団長) 東 久男(元分団長) 井上 清(元分団長) 橋本 渡(元分団長) 出村静雄(元分団長) 笹野敏弘(元分団長) 金村祐玄(元分団長) 馬場幸男(元副分団長) 川野信雄(元副分団長) 中田 勇(元副分団長) 坂本 清(元部長) 南山 昇(元部長) 大熊喜好(元部長) 大黒恵介(元班長) 森川和博(元班長) 政田昭宏(元班長) 松木松雄(元団員) 数下正博(元団員) 紺井 勉(元団員) 前原清進(元団員) 濱近 栄(元団員) 上野 洋(元団員) 堂野和章(元団員) 野谷正行(元団員・故人)

石川県知事表彰

- 功労章**
 瀧平 武(団本部・副団長) 藪下 登(高倉分団・分団長) 田中敏信(消防司令補) 干場 潔(消防司令補) **永年勤続功労章**
 竹下新吾(鶴川分団・班長) 上野 勳(神野分団・班長) 表 俊一(松波分団・班長) 横川正次(岩井戸分団・団員) 石田 勝(鶴川分団・団員) 岩崎真一(高倉分団・団員) 北井一彦(消防司令補) **退職消防団員報償**
 堂野守孝(元団員) 橋口宜之(元団員) 藤本直樹(元団員)

能登町長表彰

- 永年勤続功労章**
 梶 哲朗(白丸分団・班長) 鳥毛谷一広(上町分団・団員) 山口浩行(岩井戸分団・団員) 森川勝義(岩井戸分団・団員) 辻浦芳一(柳田分団・団員) 表 勝宏(松波分団・団員) 坂口政幸(松波分団・団員) **優良団員表彰**
 東又澄夫(上町分団・団員) 畠中 弘(山田分団・団員) 山岸貴志(山田分団・団員)

消防団員配偶者感謝状

- 山本満三(山田分団・団員) 向峠浩史(岩井戸分団・団員) 影田伸幸(岩井戸分団・団員) 竹口太郎(鶴川分団・団員) 上谷浩之(鶴川分団・団員) 佐藤嘉久(高倉分団・団員) 平田大輔(高倉分団・団員) 今井和人(高倉分団・団員) 羽毛克彦(神野分団・団員) 滝田健太郎(宇出津第1・団員) 大豊 太(松波分団・団員) 団子石和雄(松波分団・団員) **消防団員雇用事業所感謝状**
 中下鉄工所 代表取締役 中下達夫 代表理事組合長 坂本明

平成19年入団者(17人)

- 田谷博幸(神野分団・団員) 藪下要介(松波分団・団員) 干場智央(高倉分団) 小坂陽一(神野分団) 田高直樹(白丸分団) 磯部勇氣(白丸分団) 澤田和哉(柳田分団) 安宅 操(宇出津第1分団) 紙子輝芳(宇出津第1分団) 竹原正生(宇出津第1分団) 岩坂崇寛(松波分団) 菅原利夫(小木分団)

交通安全祈願祭
交通事故を防ぎ安全な1年に

能登町交通安全協会が行う交通安全祈願祭が1月10日、宇出津の酒垂神社で行われ、交通推進隊や町会区長会、老人クラブなど関係者約30人が今年1年の交通安全を祈願しました。

年末には2件連続で死亡事故が起り、昨年町内で発生した人身事故は42件（死亡者4人・負傷者65人）となりました。新平悠紀夫交通安全協会会長は、2件の死亡事故を振り返り「今年1年死亡事故のないよう願っています。皆さんの協力で交通事故防止に努めたい」と決意を新たにしていました。この後、参加者にお祈りを受けた交通安全のお守りが配布されました。



交通安全を祈願し、玉ぐしを捧げる持木町長



持参した募金を手渡す水元さん

赤い羽根共同募金
ボランティアの心育む街頭募金

12月27日、宇出津小学校児童会を代表して水元佑哉さん（6年）が、赤い羽根共同募金を持参し町社会福祉協議会能都支所を訪れました。宇出津小児童会は12月20、21日にアルプ前で街頭募金を呼びかけ、2日間で45,144円の募金を集めました。児童らは1時間ごとに交代しながら、用意した赤い羽根がなくなるほど頑張ったそうです。水元さんは「たくさん集まりうれしかったです。困った人のために役立ててください」と坂本支所長に募金を手渡しました。同行した担任の中村先生は「子どもたちにも良い経験になったのでは」と話していました。

町長と町会区長会連合会との懇談会
まちづくりに対する理解と協力を

能登町町会区長会連合会と町執行部との懇談会が1月21日、国民宿舎やなぎだ荘で行われました。懇談会には連合会から38人の町会長・区長が出席し、行政改革の状況や今後の取り組みについて、第1次産業の振興について、高校再編・統廃合についての3つテーマに関する町の考え方や取り組みを質問しました。出席した町会長・区長からは「町民、行政、議会が一体となって行革を進めてほしい」「住民サービスが低下しないように」「海洋深層水を活用した産業の開発」など行革に対する要望や産業振興の提案など、さまざまな意見が出ていました。



町長に質問をする町会区長会連合会の皆さん



宇加塚大乘寺前で放水する消防団員ら

文化財施設防衛訓練
貴重な財産と命を火災から守れ

文化財所蔵施設の防火点検や消火訓練を実施する防衛訓練が1月20日に宇加塚の大乘寺、27日には大箱の願正寺で行われました。この訓練は1月26日の「文化財防火デー」に合わせ、文化財の防火体制の強化を目的に行われたものです。消防署員や地元消防分団、女性防火クラブなどが参加し、境内から火災が発生したという想定で放水作業が行われました。

宇加塚での訓練では、地域住民を対象にした救命処置の講習会が宇加塚集落センターで開かれました。参加者らは心臓マッサージに関する質問をするなど、熱心に講義を受けていました。

波並地区左義長
伝統ある地域行事が郷土愛を育む

▶「扇めでたい末繁盛、家も蔵も建つように、善銭グワッサーリ」という口上で家々の繁栄を願う「扇祓い」

▼書き初めを飾った竹を持ち、左義長が行われる漁港に向かう子どもたち。左義長の火で焼いた餅を食べると病気をしないといわれています



無病息災や文字の上達などを願う火祭り左義長。1月13日には波並地区でも左義長が行われました。波並の左義長は「扇祓い」と呼ばれ、白い扇3枚を組み合わせた円にしたものを竹竿につけ、子どもたちが縁起の良い口上を歌いながら家々をまわります。町内をまわり終ると港に集まり、正月飾りなどを山積みにした真ん中に左義長竹を立て火をつけます。子どもたちの書き初めなどが飾られた竹が、海側に倒れば大漁、山側に倒れば豊作になるといわれ、今年は海側に倒れました。昭和57年に半世紀ぶりに復活し、保存会により現在まで継承されている「扇祓い」。郷土愛を育む大切な行事として、これからも守り伝えてほしいものです。

九十九ドラマチックカンパニーが公演
きらりと光る若き俳優スマイル

昨年、県健民運動推進本部子どもドリームフェスティバルへの出場を機に結成された九十九ドラマチックカンパニー「きらめき☆（スターズ）」。小木地区の小中学生13人で構成されたこの劇団のクリスマス公演が12月24日、小木水産会館で行われました。ステージでは劇団員らが毎週練習を重ねてきた創作劇「幸福のかけら・アメジストの秘密」が披露され、熱のこもった演技で会場に集まった観客を楽しませました。

衣装や大道具の準備には、劇団員の保護者も協力したということもあり、全員で作上げた素晴らしい舞台となりました。



親子愛をテーマに子育てができない王妃様と娘の物語

「自分を信じて頑張る」と生徒たちに語る北岡さん



柳田中学校 創立記念 北岡幸美さん講演会
努力と経験は自分を裏切らない

1月17日、柳田中学校創立記念行事として北岡幸美さん（輪島市）の講演会が行われました。北岡さんは筋肉が骨になっていくFOP（進行性化骨筋炎）という難病を抱えながら、この病気が国の難病指定を受けるよう署名活動を続けてきました。昨年3月、念願の難病認定を受けた北岡さんは、進行していく病気に闘った学校生活や活動の経験、今後の夢について語りました。「全国からの励ましの手紙が自分の勇気になりました」「努力と経験は絶対に自分を裏切りません」と話す北岡さんの言葉を、生徒たちは目に涙をにじませながら聞き入っていました。